



海中のホンダワラ



海面のホンダワラ

海中と海面のホンダワラ（褐藻類）

泡瀬地区で見られる海藻類・海草類には、周年生育して藻場を形成する海産種子植物の海草類と、主に季節的に藻体として繁茂する海藻類がある。海藻類は冬から春にかけて生長するものが多く、泡瀬地区海域で普通にみられるものは、緑藻類はアナアオサやボウアオノリ、ヒトエグサなどで、紅藻類はガラガラやイバラノリなど、また褐藻類はフクロノリやオキナワモズクなどである。写真は、褐藻類の仲間のホンダワラであるが、ホンダワラは葉っぱのような形の藻体の間に、丸い形の物体が多くついている。この丸い球体は、何かというと、海の中では浮きの役目を果たし、「気泡」と呼ばれる。この球体によって、ホンダワラは海面を漂ったり、海の中でも直立に立つことができる。海藻は、陸上植物のような根、茎、葉を持たないため、「下等な植物」と呼ばれることがある。しかし、海藻は水と栄養を海水中から体全体で吸収することができるため、陸上植物のような根や茎を作る必要がなかったと思われる。むしろ、ホンダワラ類は、浮力により海水中で体を直立させる「気泡」を持つことによって大型化に成功し、茎や葉と類似した器官を発達させて効率的に光を利用しているため、「海の中の高等植物」と呼べるかもしれない。